

司書として働く

図書館実習事前指導Ⅰ講演録 2016年12月3日

坪根 史織（地方自治体図書館司書）

はじめに

みなさん、こんにちは。私は現在、地方自治体の図書館に勤務しております、坪根史織と申します。本日は短い間になりますが、どうぞよろしくお話ししたいと思います。

図書館で今、どんな仕事をしているのかということを中心にみなさまにお話ししたいと思います。その前に私のプロフィールの方を紹介した方が、話が分かりやすいと思いますので、そのあたりからお話させてください。

私は2009年に立教大学の文学部文学科文芸思想専修に入学をいたしました。大学4年次に、2012年に免許資格職職員採用試験を受けて合格し、現在、専門職の司書として勤務しています。2013年の4月に入庁し、研修を経て、最初の図書館に勤務を命じられました。そこで3年間ほど仕事をさせていただきまして、今年度より違う図書館に異動しました。

実際の仕事のご紹介

最初に配属になりました図書館から、今現在どのような仕事をしているのかまでお話ししたいと思います。

3年勤務した最初の図書館では、まず予約担当という仕事を2年ほどしました。図書の予約サービスというのを使ったことのある方も多いと思いますが、そのサービスの管理を行っていました。予約受付のチェックから、予約資料の確保など皆さんの想像しやすいものから、文献複写や相互貸借という、自分の図書館で自分が持っていない資料を他の図書館で文献を複写・貸出してもらったりする依頼も行っていました。予約資料が事故なく利用者のもとに届くかを確認し、どの他機関に利用者が求めているものがあるかなどの調査に奮闘した2年間でした。

3年目には児童書の受入担当という仕事を行いました。私が勤めている図書館では、1年間で受け入れる蔵書について館ごとに抱えている課題を解決する為の目標を立て、計画的に予算を執行し蔵書を選定していくことになっています。その中で受入担当とは、目標を立て、目標を達成すべく、予算の執行の管理を行ってまいりました。具体的には、「あなたは〇〇担当なので、今年の目標にそってこの分野に留意して資料を選定してください」という管理です。なので、予算の管理を含め、資料の発注や寄贈の受入をすべて行っていたのが、3年目です。

図書館で与えられる仕事は予約担当や受入担当だけではなく、資料の購入の担当というものもあります。私が勤めている図書館では、一般書担当と児童書担当に分かれていて、それぞれのグループに分かれて、選定会という資料購入の会議に基づいて購入していきます。

最初の2年間は一般書の担当をしており、1年目は9門・文学の担当、2年目は3門・社会科学の担当をしておりました。3年目は児童書の担当になりました。児童書については私が勤めている図書館では3部門に分かれており、絵本、知識・調べものの本、物語と分かれており、私は知識の担当をしておりました。担当しているところの書架管理の仕事も含め、選定をしていくという仕事です。

それから、児童書の担当をしていたころは学校連携事業というのも、担当しておりました。学校連携事業では主に学校の先生・学校で活動するボランティアの方に対して図書館が行う

サービスです。例えば、先生から「授業で使う〇〇についての本を数十冊集めてください」というような依頼をうけ本の手配をしたり、学校司書の方から図書館の環境整備の相談を受けたり、学校の図書室で活動している図書修理や読み聞かせのボランティアさんに対して講座の講師として出向き講義をするということもよく行っていました。

2013年から2016年3月までは小規模な図書館で仕事をさせてもらっており、この期間は家族のような感じでほかの職員や嘱託員の方にも親切にしてもらい、充実した仕事をしておりました。

2016年の4月から異動になったところは、最初に配属になったところより図書館の規模が大きく、働いている司書の人数が多いのが特徴です。ここでもまた、予約担当を任されることになりました。

今までの図書館では、一人の人がいろいろ担当を掛け持ちしていたのですが、利用者も多ければ、職員の人数も多いため、それまでは付随していた仕事にきちんと複数の職員がついているのが、それまでの館とは異なる大きな点かと思います。

その他にも、児童書の担当の中で、本の紹介文の校正を担当する会議に出る仕事も任されています。全館が集まる会議の中で決まった資料を、毎月全館からの代表で選ばれた司書がより本の魅力が伝わるように文章の校正をしていき、最終的にはHPで紹介するという仕事です。時には大先輩の作った作文を校正したり、自分の中でもうまい具合に文章が出てこなくて煮詰まったりすることもあります。一年間で多くの資料と向き合い、丁寧に読み本の魅力を発信していくという仕事は困難もありますが、非常にやりがいがあり勉強になります。

大学時代に経験した図書館実習と、就職までに道のりについて

ここからは私が図書館実習に行った時のこと、それから就職活動についてお話ししたいと思います。私が図書館実習に行った時は大学の3年生でした。図書館に就職したいなと何となく思っていた節があり、就職活動の第一希望を司書としてするのかしないのかというのを決めるなら早い方が必ずいいだろうということで、大学3年で実習に行けるように司書の授業をとっていきました。実際に図書館実習は行ってみて、「これって大学の座学では分らなかったな」ということの連続でした。

私は図書館実習において、面白いなと思ったことがたくさんあり、初歩的なことから全部、発見の連続だったように思います。予約確保とか配架とかそのような図書館にとってみれば当たり前なことだとは思いますが、その一つ一つの初歩的な仕事に対して面白く感じました。座学では、「NDCが……」とか「書誌データが……」とか勉強していて、第一線図書館とか第二線図書館とかそういう難しいことを覚えていき、図書館に実習で行ってしてから、実際の図書館を目の当たりにし、とても司書の仕事に対して興味を持ちました。図書館実習に行くということは、図書館学では学びきれなかったことを勉強できる大事な機会になると思います。ぜひ、楽しんでてもらいたいなと思います。

図書館側の人間になってみて思うのは、図書館実習に来てもらう学生さんには、やらせてあげられることとやらせてあげられないことがあるということ。私は最初の図書館で図書館実習の受入の担当をしていましたが、図書館で行っている様々なイベントごとの運営とかはさせてあげられません。ただ、毎日必ずやるような作業は、やらせてあげられるものが多いです。書架整理、配架、カウンターでの貸出など、そういう毎日必ず何時間かは行う仕事はやってもらえることが多いので、それが自分にとってどうなのかということや、やらせてあげられることが多いので、それが自分にとって楽しいのか、それが向いているのか向いていないのか、向いているのだったらなぜ向いていると思うのか、向いていないのだったらなぜ向い

ていないと思うのかをきっちり考えてもらうことで、自分の就職先の選択肢になってくるのかなと思います。私は図書館実習で経験したことが楽しく、やりがいを感じ、就職したいと思いました。図書館実習を終えた大学3年生の秋でした。

私の場合、行き先は近くの県立図書館でした。実は希望と違っていたのですが、この実習で学んだ内容が、今の職場に入ってすぐに役に立ちました。実は今勤務している図書館と、実習で行かせていただいた図書館には関わりがあり、その業務内容を担当することになったのです。これは全く偶然ですが、それ以外にも図書館の基礎的な仕事、例えば書庫出納、配架、貸出返却、レファレンス等は一通りさせてもらったからです。

自分がこの図書館に就職したいからと、就職希望先の図書館に実習希望を出したとして、結果が行き先と違ってても必ず勉強することはあると思います。残念だと思わないでいただければと思います。図書館実習の経験は座学とも、お客さんとして行く時とも全然違うのだと発見できると思います。一生懸命働いてみて、図書館と向き合ってもらえればという風に思います。

図書館実習を満喫し、就職試験を受けることを決めたのが2011年の9月なのですが、実は2010年にちょっとしたきっかけがあって、それまでに公務員試験の勉強をしていました。そのきっかけというのはアルバイト先で、公務員に就職が決まっていた友人ができたことです。就職などの話をするにあたって、私も大学3年になれば就職活動を行わなければならない、図書館に就職をしたいなら、私立図書館でない限りは公務員試験の受験が必要だろうと思いました。そのため、友人に試験とはどんなものかと話をしているうちに、私はもう試験が終わったから使っていたテキスト全部あげるよと全てもらいました。大原のテキストだったのですが、それを見ながらこんなことやっているのだと知ったのです。その中でも自分が苦手そうな科目があったので、それをメインに勉強を何となく始めたのが2010年頃でした。ただ、その時は気が向いた時に4、5問やるとか、電車に乗っている時にコピーしてきた1枚をやるなど、切羽詰まった勉強の仕方ではありませんでした。

その後、図書館実習に行き、図書館に就職したいと決意し、真面目に勉強を始めます。私の時は就活スタートが12月1日だったのですが、みんながマイナビに登録してエントリー等忙しくしている間に、私は公務員試験のテキストを買って勉強を始めました。就職が厳しかったためか、あまり周囲の就職が決まらないうちに私も試験を受けることになりました。9月に試験を受けまして、12月に合格発表という流れで、無事に司書の専門職の試験に合格し、今に至っています。

第一志望以外にもいろいろなところを受けました。図書館は現在勤めているところが第一希望だったのですが、他のところも受けました。私の場合は第一希望を最初に受ける自信がなかったため、図書館以外の公務員試験を受けて練習しました。試験の雰囲気や出題された課題に沿って論文を書く問題等、実際に試験を受けることで模擬テストではない公務員試験を知ることができました。それから、第一次試験が面接だった地方自治体も受験しまして、公務員試験の面接を受けてみることにしました。筆記試験の練習のために受けてみた試験は割と一次の筆記試験を合格することが多く、自信につながりました。面接試験のほうは三次か四次まで進み、他の試験と当たったのでお断りをしたのですが、こちらも良い結果が出ていたので、自信を持っていました。このように、公務員試験を受けるにあたって、第一希望の自治体が決して一番にならないよう、ほかの経験を積んでから行くということを徹底して行いました。

受験先によって倍率は異なりますが、図書館司書の専門職の募集は珍しいことが多いので、倍率が高めになってしまうことのほうが多いようです。公務員試験に通常で合格するラ

インというのが筆記試験だと大体6割と言われておりますが、倍率の高さから6割以上得点できるように勉強をしました。たくさん科目があるので捨てる科目というものができただけ少なくするように勉強しました。ただ、自分が文系だったこともあり、苦手な物理等はあらかじめいたのですが、その代わりに生物と地学は得点できるように勉強するとか、戦略を立てて勉強をしておりました。

やはり就職活動をしていく中で、司書の試験をいくつか受けると思いますが、第一志望にモチベーションを合わせていくのがいいと思います。実際に私も試験を受ける時は、ほかの自治体等の受験もこなしつつ、第一志望が頂点に来るように勉強の日程管理をしていました。様々な試験に全力を出していくのは、日程的に難しいこともあるかと思いますが、何が自分の第一目標なのかを忘れずにしていただければと思います。

就職活動時にはあまり考えていなかったのですが、今になって思ったことがあります。それは、図書館に就職を希望される方は自分が図書館で何をしたいのかということを中心に考えてから就職された方がいいということ。やはり、周囲の就職先が決まっていく中で、焦りを感じ早く試験が終わるからここにしようとか、考えてしまう瞬間もあると思います。7月で内定が出るところと、12月まで内定が出ないところだと前者にしてしまおうと考えてしまうことだってあると思います。ただ、内定が早く出たからという理由で選んでしまうと自分が思い描いていた図書館員の仕事ができない可能性があるので要注意です。

例えば、都道府県レベルの立図書館と市町村立の図書館とでは、業務に大きな差があります。例えば、児童サービスをやりたいなと思っている方が児童書を持っていない県立図書館に行ってしまうと、児童サービスに携われない可能性があります。また、レファレンスに力を入れたいとか、市町村図書館のサポートをしていきたいと考える方は、県立図書館を選んでいけばいいのかなと思います。レファレンスであっても、サポートをする対象が大学の先生や学生ということであれば、大学図書館を受ければいいと思います。このように自分がやりたいことを考え、就職先を考えていただきたいと思います。

実際に私の知り合いに、都道府県立図書館と市町村立図書館の両方に受かりまして、市町村立図書館を選択して就職された方がいます。都道府県立の方が内定時期も早く、また倍率もかなり高かったのですが、興味のある児童サービスをやりたいということで、市町村立図書館を選択したとのこと。難易度で言えば、都道府県立のほうがその年は難しかったのですが、今思えばそういうことを大切に就職活動をしていくことが非常に大切なのだと思います。これからの図書館実習を通して、座学で今まで学んできたことに加えて何かやってみたいと思うことを実習中に発見し、それを目指して就職活動をしていってほしいと思います。

おわりに

最後になりますが、私は今回のようにお話をする機会をいただいた際には、必ず図書館学で勉強したことは社会に出てからも必ず役に立つということを伝えていきます。様々な情報があふれている時代に、図書館学で学んだ「探したい情報にアクセスする力」というのは、かなり役に立ってくるのかなと思います。情報の調べ方を学んだり、それから、情報の信頼性を判断して収集していくことというのは、難しいことです。それを大学時代に学び得ているということは皆さんの強みになっているのではないかと思います。

図書館実習は皆さんにとって、色々なことを見つめなおしたり、再発見したり、とても有意義な経験になると思います。一つ一つを楽しみながら、行っていただければと思います。ぜひ楽しみにしててください。今日はどうもありがとうございました。